

令和2年度太陽とみどりの里重点事業報告

新型コロナも変位しながら感染拡大を繰り返し未だ終息が見えない状況でこの1年推移してきた。職員をはじめ各事業所での感染対策を行い、幸い地域での広範囲の感染拡大もなく、事業収益的には大きな影響を受けずに運営ができた。懸案であったグループホームの移転についても3月中旬に工事が完了し、建物登記及び定款変更を行い引っ越し等の準備を行った。職員募集のチラシも併せて新聞折り込みで行つたが、あまり反響はなかった。職員確保については課題が残った。

項目	実施計画	事業実施状況
(1) グループホームなごみの移転建設	・令和2年度中に移転を行う	<ul style="list-style-type: none">・令和3年3月10日建築工事完了。同24日建物引渡しを受ける。引渡し以後備品・什器等搬入の上施設見学会を開催し、空調の移設工事を行い入所者の引っ越しを行う。
(2) 中期事業計画の作成		<ul style="list-style-type: none">・運営施設を取り巻く地域の状況・運営中の在宅事業の見通し・事業展開計画・資金計画

令和2年度 事業報告書

事業所名 法人事務局

項目	事業計画	実施状況
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、職員、経営者の三者の満足を目標とし、地域に愛され信頼される施設を目指し活動を行う。 ・グループホームなごみ建設に向けて、各種会議等の調整及び進行管理と補助金申請等円滑な事務事業の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は新型コロナウイルス感染症の影響で施設内外の行動が制限された年であったが、各事業所において衛生管理の徹底を図り、創意工夫をしながら活動を行った。また、グループホームなごみ施設の新築により利用者の住環境の改善を図ることができた。 ・建設委員会、実務者会議を都度開催し協議・調整を行うと共に工事現場会議も毎月開催し工事の進捗管理を行った。
業務目標	<p>※ 法人関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 法人経営研修に非常勤理事にも出席要請を行う。 ② 適正な法人経営に向け、監事等に監査関係研修への出席要請を行う。 ③ 理事会、評議員会の議案及び日程の調整、議事録の作成等会議の円滑な事務執行を図る。 <p>※ 総務関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経営透明性の確保 財務諸表の開示や定期的な広報誌発行を行い、地域に向け情報発信を図る。 ② 社会保険労務士の指導による適正な労務管理を実施する。(社会保険・労働基準監督署関係・法人諸規則・契約等) ③ 福利厚生センター事業の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査関係研修には監事 2 名の出席を頂いた。 ・理事会年 5 回・評議員会年 3 回開催した。通常理事会の他にグループホームなごみ新築工事関係の臨時理事会を開催した。 ・監事監査を年 2 回（中間決算・年度末決算）受けた。 ・法人ホームページによる財務諸表等の開示を行うと共に、閲覧に供するため財務諸表等の書類を法人事務局に備え置いた。また、広報誌を発行し決算状況等の情報発信を行った。 ・出垣社会保険労務士指導・助言により適正な労務管理を行うと共に労働施策推進法改正によるハラスメント防止指針を策定した。 ・福利厚生センター事業を活用し、永年勤続表彰等を行った。また、健診助成も実施した。

	<p>④ 部署間の統括、調整、援助を行う。 →定期的な運営会議の開催（1回／月）</p> <p>⑤ 安全で快適に働く職場環境を確保するため職場巡視を実施する。</p> <p>⑥ ストレスチェックを実施し、ストレスの解消と健康管理に努める。</p> <p>※ 経理関係</p> <p>① 利用状況及び収支等の経営状況を把握し、課題の解決や経営の分析に努める。</p> <p>② 税理士事務所による月次会計指導及び内部経理監査を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部署間の統括、調整のため法人運営会議を年8回開催した。 ・職場巡回チェックを毎月実施。インフルエンザ予防接種の半額助成。「しまねドライブコンテスト」へ28チーム84名の参加。 ・ストレスチェックの実施。（対象者94名、受検者63名、受検率67%）高ストレス者の産業医との面接希望はなかった。 ・正確な月次決算に努め経営状況を把握した。また、会計責任者と出納職員を別に配置すると共に内部経理監査委員による監査を実施し、内部牽制を図った。
能力開発目標	<p>① 会計に関する十分な知識を習得するため、各種団体の会計実務研修を受講する。</p> <p>② 社会保険労務士による労務管理等の知識の習得を図る。</p> <p>③ 法人窓口として接遇向上を図るため、接遇研修を受講する。</p> <p>④ 全職員を対象とした職員研修を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で開催される実務研修は必要最小限での受講となった。 ・各種研修は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための多くが中止となった。また、職員研修の開催も中止した。

令和2年度理事会・評議員会・監査会等に関する事項

○理事会に関する事項

開催日	出席数	議案等	結果
令和2年 6月10日	7名	第1号議案 納入規程の一部改正について 第2号議案 令和元年度事業報告及び計算書類、財産目録の承認並びに監事監査報告について 第3号議案 令和2年度定時評議員会の招集について	承認
令和2年 8月31日	8名	第1号議案 グループホームなごみ建設事業計画書（案）について 第2号議案 令和2年度第1次補正予算（案）について 第3号議案 令和2年度第1回臨時評議員会の招集について	承認
令和2年 10月1日	8名	第1号議案 グループホームなごみの新築工事請負契約の締結について	承認
令和2年 12月16日	8名	第1号議案 アルバイト職員就業規則の一部改正について 第2号議案 令和2年度第2次補正予算（案）について 第3号議案 令和2年度第2回臨時評議員会の招集について	承認
令和3年 3月22日	8名	第1号議案 定款の一部改正について 第2号議案 組織管理規則の一部改正について 第3号議案 評議員選任・解任委員会の運営に関する規程の一部改正について 第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集について 第5号議案 評議員候補者の推薦について 第6号議案 令和2年度第3次補正予算（案）について 第7号議案 令和3年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について 第8号議案 主要人事について 第9号議案 令和2年度第3回臨時評議員会の招集について	承認

○評議員会に関する事項

開催日	出席数	議案等	結果
令和2年 6月25日	11名	第1号議案 令和元年度事業報告及び計算書類、財産目録の承認並びに監事監査報告について	承認
令和2年 9月8日	11名	第1号議案 グループホームなごみ建設事業計画書（案）について 第2号議案 令和2年度第1次補正予算（案）について	承認
令和2年 12月24日	10名	第1号議案 令和2年度第2次補正予算（案）について	承認
令和3年 3月30日	10名	第1号議案 定款の一部改正について 第2号議案 組織管理規則の一部改正について 第3号議案 令和2年度第3次補正予算（案）について 第4号議案 令和3年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について	承認

○監事監査に関する事項

開催日	出席数	議案等
令和2年 5月26日	2名	1) 令和元年度事業及び決算監査 2) 理事の業務執行状況
令和2年 11月11日	2名	1) 令和2年度上半期事業及び中間決算監査 2) 理事の業務執行状況

○内部経理監査に関する事項

開催日	出席数	議案等
令和2年 10月19日	2名	1) 尼子苑利用者の預り金等について

令和2年度 事業報告書

事業所名 尼子苑

目 標	事業計画	実施状況
①利用者一人ひとりの人权を尊重し個々の思いやニーズが実現できるよう支援しサービスの質の向上に繋げる。 ②職員参加し資格取得に取り組む。 ③実流につなげる。 ④関係機関等との連携を密に行い信頼関係を深める。	○①利用者一人ひとりの人权を尊重し個々の思いやニーズが実現できるよう支援しサービスの質の向上に繋げる。 ○②職員参加し資格取得に取り組む。 ○③実流につなげる。 ○④関係機関等との連携を密に行い信頼関係を深める。	○食事・入浴・排泄・行事・レクリエーションなど各ケア検討委員会を定期的に開催し自立・自律に向けた取り組みを話し合いサービスの質の向上に努めた。 ○介護福祉士のフォローアップ研修、介護支援専門員の資格取得に取り組んだ。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修医や実習生の受け入れはできなかつた。また、保育園との交流や抹茶ボランティアなどの受け入れも中止した。 ○老人保健施設や介護医療院、療養型医療施設、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム等との連携については電話連絡のみで情報交換を行つた。
重点目標	①利用者個々の状況にあつた外出援助や離床を積極的に行い単調になりがちな生活に変化をつけ楽しめのある生活ができるよう努める。 ②バイキングやセレクト食・誕生日など運んで食べる機会を増やし、食べる楽しみを満喫できるよう努める。 ③利用者の健康状態の把握に努め異常の早期発見・早期治療に努め、感染症の予防及び対策を徹底する。 ④苑内行事や季節ごとの行事に利用者が全員参加できるよう努める。 ⑤事故の防止及び適切な緊急対応を行い安全に安心して生活できる快適な場の提供に努める。 ⑥苑内外の研修に積極的に参加し資格取得及び認定の取得に取り組む。また、接遇研修や階層別研修などに参加し全職員が各自の立場で役割を果たす。 ⑦協力病院や各関係機関との連携を密に行い信頼関係を深める。	○コロナ禍の影響で外出援助も難しく、ご家族との面会も制限する生活が続いた。できるだけ利用者個々への声がけを多く行い精神面でのサポートに努めた。 ○毎月3回定期的にバイキングやセレクト食を実施した。特に刺身バイキングや新米おにぎりバイキングは好評だった。また、スイーツバイキングでは季節感のある水羊羹やフルーツポンチを喜ばれた。調理の実演や鮓の解体ショーはコロナ禍により中止した。毎月1回誕生日のお祝い膳を提供し喜んで貰えた。お祝い膳の献立は、誕生者に決めて貰つた。 ○利用者の日々の健康状態を観察し主治医との連携を図り、病状の悪化防止に繋げた。感染症予防では、特に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため手指消毒・手すり・ベット周囲の消毒・換気など徹底して行い予防に努めた。年間の入院者数は6名で前年度より2名減。殆どの方が短期間で退院できた。 ○地域の行事や自宅への外出、ショッピングや外食、ドライブなどはコロナ禍の影響でほとんど実施できなかつた。年間20名ドライブのみ実施した。 ○毎月1回定期的に苑内研修を開催し、身体拘束・虐待・感染症・認知症ケア等々について事例検討を行い日々のケアに繋げた。

<p>①研修等に積極的に参加し自己研鑽に努め、全職員が各自の立場で役割を認識し能力の向上を図る。</p> <p>②事故報告やインシデント報告等の活用により事故の状況把握・分析・検証し再発防止能力の向上を図る。</p> <p>③職員間のコミュニケーションとチームワークにより明るい職場づくりに努力する。</p>	<p>○コロナ禍の影響で外部研修に参加することができなかつた。苑内研修では、人権・緊急時の対応・身体拘束・虐待・認知症・介護技術など介護職員としての専門性や人権・差別などについて知識を高めた。また、各ケア検討チームを中心定期的に話し合いを行いサービスの質の向上に繋げた。</p> <p>○インシデント報告書を積極的に記入できるよう、職員会議や日々のミーティングを利用して「気づき」について意識を高めるよう努力した。</p>
<p>能力開発目標</p>	<p>①保育園、中学校との交流や実習生・ボランティアなどの受け入れを積極的に地域との関係を密にする。</p> <p>②地域の行事等に積極的に参加し地域住民との交流を図る。</p>
<p>地域目標</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保育園との交流やボランティア等の受け入れは中止した。また、研修医や実習生の受け入れもできなかつた。</p> <p>○コロナ禍の影響でお雛祭りや恵比須祭りなど地域の行事は全て開催されなかつた。尼子苑敬老会も規模を縮小し食事会に変更したため家族や地域の方々との交流はできなかつた。</p> <p>○長期入所については定員82名。稼働率98%を目標とする。</p> <p>○短期入所については定員8名。稼働率90%以上を目指とする。</p> <p>○短期入所については、年間延べ2,081人、1日平均約5.7人、稼働率71.33%の実績だつた。前年度に比べ稼働率10.87%減少した。減少の主な理由は、冬季における常連利用者の減少による入院など急なキャンセル調整も困難だつた。</p>

令和2年度 事業報告

事業所名 尼子苑

1. 年間行事

4月	はしまチャレンジ：筍・わらびなどの山菜煮しめ
5月	はしまチャレンジ：鯉のぼりどら焼き 小豆ようかん
6月	笹巻き 薱蒲湯 吉野家牛丼 はしまチャレンジ：焼きそば
7月	はしまチャレンジ：ジャガイモの煮っころがし 夏野菜の酢の物
8月	七夕 吉野家牛丼 はしまチャレンジ：焼きそば
9月	尼子苑敬老会 吉野家牛丼 はしまチャレンジ：ポテトサラダ
10月	運動会 物故者法要 吉野家牛丼 はしまチャレンジ：鉄板焼きそば
11月	秋の味覚を味わう会 そば打ち 吉野家牛丼 はしまチャレンジ：きな粉団子
12月	ゆず湯 忘年会 餅つき そば打ち 喫茶
1月	とんどさん 餅つき はしまチャレンジ：4色おにぎり
2月	節分 そば打ち はしまチャレンジ：揚げドーナツ
3月	花見外出 はしまチャレンジ：炊き込みご飯

※その他、バイキングやセレクト食は毎月3回、お祝い膳は毎月1回定期的に実施した。保育所交流や抹茶VO、買い物、ドライブ、外食、ふるさと訪問などについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施出来なかった。

2. 研修

施設内研修	外部研修
・身体拘束廃止 虐待防止について	・医療介護合同勉強会 新型コロナウイルス
・倫理 法令遵守について	・認知症研修会
・事故防止について 事例検討	・Web会議 Web研修に関する研修
・新型コロナウイルス感染予防対策について	・新型コロナウイルス感染症に関する研修会
・感染症予防について 食中毒予防 ノロウイルスなど 尿路感染症 ESBL対策 風邪とインフルエンザ予防対策 皮膚疾患	・介護の入門的研修会 ・県老施協看護師専門部会研修
・救急救命について ・低体温症の対応について ・接客マナー 電話対応などについて ・防災研修 ・食べる仕組みの勉強会 基礎知識 唾液について 食事形態の分類とトロミ	
・復命研修 ① 医療介護合同勉強会 新型コロナウイルス感染症の発生に備え 感染対策マニュアル改訂版 ゾーニングの考え方 発生時の松江保健所の対応	
② 認知症研修 認知症の理解と対応 事例紹介	
③ Web会議・研修に関する研修 設備 予算など	
④ 介護の入門的研修会 介護の基本 障がい理解など	

3. 入退所状況

入所者数	20名			
(参考) 入所前の状況	自宅 4名	施設 14名	病院 2名	その他 0名
退所者数	22名			

4. 入所者数 (R3.3.31現在 要介護度別)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
人数	2名	3名	24名	36名	17名	82名

5. 短期入所利用者状況

	延べ人数	稼働率
4月	167	69.58
5月	178	71.77
6月	153	63.75
7月	181	72.98
8月	185	74.6
9月	179	74.58
10月	153	61.69
11月	172	71.67
12月	155	62.5
1月	174	70.16
2月	181	80.8
3月	203	81.85
合計	2,081	71.33

令和2年度 事業報告書

事業所名 太陽デイサービス

目標	事業計画	実施状況
重点目標 サービス目標	利用者の意志を尊重し、サービスを提供する。 在宅生活が継続・維持出来るよう、在宅生活に視点をおいたサービスを提供する。 事故防止に努め、安全で快適なサービスを提供する。	利用者の意志を尊重するサービス提供に努めた。 在宅生活が継続・維持出来るよう、在宅生活に視点をおいてのサービス提供を行った。 事故・インシデント発生後、安全で快適なサービス提供が出来るよう、現場検証や再発防止策を職員で話し合った。
能力開発目標	利用者の要望に基づいて、意欲が高まるしクリエーションの提供をする。 日常生活動作等を中心にして、在宅支援の視点で援助する。 事故防止の徹底。	利用者の要望を出来るだけ聞き、意欲を高めていただけとするようしクリエーション(貼り絵・塗り絵・手芸等の作品作り)を提供した。 在宅生活(日常生活動作)の視点での支援に努めた。 事故は、1件で昨年度2件より1件減ったが、インシデント13件は昨年度と変わらなかった。(インシデント内容:主に転倒が多く、ついで移乗の際の負傷。)
地域目標	接遇や研修等に参加し、職員の資質向上に努め、質の向上を図る。 施設内研修等で職員のレベルアップと職員間の連携、チームワークの強化につなげる。	新型コロナウィルス感染症防止のため、外部研修参加は2件のみとなつた。 内部研修は、外部研修2件の復命研修と施設内研修2件を行つた。
業務目標	ボランティアの受け入れを行い、地域との交流を図る。 デイサービス祭りを行う。	新型コロナウィルス感染症防止のため、ボランティアの受け入れはしなかった。 新型コロナウィルス感染症防止のため、デイサービス祭りは中止した。
	1日平均22名の利用 積極率78%を目指す。 追加利用や振り替え利用等、臨機応変な対応をする。 空き状況等を居宅支援事業所に伝え、ケアマネと連絡をとる。 出来る経費の削減や業務の効率化を図る。 健康管理をし、利用者の欠席や入院等減らす。	登録利用者の1日の平均が22～23名であったが、ショート利用・当日のキャンセル等あり1日の平均利用者は17.5名稼働率64.7%で目標に達しなかった。 居宅支援事業所に空き状況を伝えたり、追加利用、振替利用の対応を行つたが目に見えた利用者増には至らなかつた。 送迎車を減らす等の効率化、業務の効率化による時間外労働の減少等で経費削減に努めた。

<資料1>

各種行事・外出支援について

4月	町内の桜・伯太チューリップ花見外出	10月	運動会、下山佐文化祭参加・展示作品見学外出
5月		11月	紅葉狩り外出
6月	ふれあい書道展出展	12月	クリスマス会
7月		1月	新年会
8月	七夕飾り	2月	節分豆まき、白鳥見学外出
9月	敬老会	3月	町内の桜花見外出

<資料2>
研修参加状況

	介護職員	看護職員	生活相談員	管理者	合計
常勤職員	0	0	1	1	2
非常勤職員	0	0			0

* 主な研修内容
 外部研修：認知症研修 新型コロナ発生に備えた研修会
 内部研修：事故・インシデント防止勉強会 嘔吐物処理勉強会

<資料3>
利用実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R2平均	R元平均
R2延人数	426	451	481	510	479	470	512	439	456	370	382	452	452	482
平均利用者数	16.4	17.3	18.5	18.9	18.4	18.1	19	17.6	17.5	15.4	15.9	16.7	17.5	18.7
稼働率	60.68	64.25	68.52	69.96	68.23	66.95	70.23	65.04	64.96	57.1	58.95	62	64.74	68.99

令和2年度 事業報告書

事業所名 比田デイサービスセンター

目 標	事 業 計 画	実 施 状 況
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○住み慣れた地域で個々の生活スタイルに合わせて日常生活の自立・維持が出来るように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況に合わせて一人一人が楽しみのある、充実した在宅生活が継続できるように支援した。 ・出掛けける事で他者と交流が出来、笑う事による健康新進を図った。
サービス目標	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の利用者のアセスメントができる 個別のケアが出来るように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスを行い利用者個々のケア内容をスタッフが把握するように共有化した。 ・声掛け、見守りをしながら「出来る事への自信」となるよう支援した。
能力開発目標	<ul style="list-style-type: none"> ○研修に参加し知識の習得をする事でスタッフのスキルアップを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修ができず、内部研修を実施してスキルアップを図った。 ・改善すべき点があればスタッフ同士で声を掛け合い取り組む様に努めた。
地域目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事への参加や「比田デイサービス交流会開催」を通して地域の方々と交流を広げる。 ○認定こども園・小学校等に雑巾を配布する等で地域貢献を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス流行により運営推進会議は行わず、令和2年8月・令和3年2月に状況報告を行った。 ・デイサービス交流会を中心としたボランティアの受け入れは行わず。
業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度と令和元年度のキャンセル率の比較を行つたところ、大きな差がなかった事により、新規利用者を増やす事で稼働率を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者8名であった。 ・定員に満たない日を少なくする為に臨時利用の受け入れ、利用者の利用回数の変更に応じたり、また利用日の調整を行ひ稼働率の上昇につなげた。

資料①

研修報告

	介護職員	看護職員	生活相談管理者	合計
常勤職員	△			0
非常勤職員		△		0

☆ 主な研修内容

☆ 内部研修 感染症対策・交通安全・安全衛生

資料②

外出支援・各種行事

月	内容	月	内容
4月	桜見学ドライブ	10月	尾原ダム紅葉見学ドライブ
5月	芝桜見学ドライブ	11月	龜嵩 総光寺 紅葉見学ドライブ
6月		12月	クリスマス会
7月		1月	とんどさん
8月		2月	節分豆まき
9月		3月	

資料③

利用実績表

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度平均	令和元年度平均
R2年度延人數	402	384	409	435	397	377	436	421	422	313	352	397	395	359
平均利用者数	15.5	14.8	15.7	16.1	15.3	15.1	16.1	16.8	16.2	13	14.7	14.7	15.3	13.9
稼働率	85.9%	82.0%	87.4%	89.5%	84.8%	80.6%	89.7%	93.6%	90.2%	72.5%	81.5%	81.7%	84.9%	77.2%

令和2年度 事業報告書

事業所名 広瀬デイサービス

目標	事業計画	実施状況
重点目標 心身機能の維持・向上を図り、地域で自分らしく生活できるよう支援する	利用者個々に応じた日常生活機能訓練、口腔機能訓練を実施し、心身機能の維持・向上に努め、社会の中で個々の能力が発揮できるよう支援した。	
サービス目標 自立支援を目標とした生活機能訓練の実施	利用者一人ひとりの心身機能をアセスメントし、「出来る能力」を最大限に生かすことができるように支援した。	
地域社会の一員としての役割の再獲得	個々の口腔機能について評価し、適した口腔機能運動を実施することで介護予防への意識向上に努めた。	
能力開発目標 資格取得	地域貢献活動の実施 地域ボランティアの開拓 地域・家族交流	プランター寄贈や雑巾寄贈等地域貢献活動を通して自分の役割について考え、地域社会の一員であることを実感できるよう支援した。 無資格者のための介護入門研修、新型コロナ感染拡大防止のための医療介護合同研修等への参加 * 別紙資料1参照 復命研修、内部研修を定期的に行い、全職員の質の向上に努めた。 なし
地域目標 業務目標	ひろせ保育園へのプランターの寄贈、広瀬・布部・山佐小学校、広瀬中学校へ手作り雑巾の寄贈 新型コロナ感染拡大防止の為ボランティアの受け入れ自粛中 新型コロナ感染拡大防止の為デイサービス祭り中止 * 別紙資料2参照 ○1日平均利用者数22.1名(前年度23.1名) 1日平均24名 稼働率85%以上 平均稼働率81.7%(前年度85.3%) 平均チヤンセル率9.4%(前年度8.8%) 内訳：総合事業対象者 4.1% 通所介護対象者 111.2% 前期は目標稼働率を維持していたが、11月から入院、施設入所者が増えたことにより、積雪による欠席 * 別紙資料3参照	

<資料1>
研修参加状況

	介護職員	看護職員	歯科衛生士	生活相談員	管理者	合計
常勤職員	1	1		0	1	3
非常勤職員	1	0	0			1

* 主な研修内容

介護入門的研修、認知症研修、新型コロナ感染予防研修、医療介護合同研修

<資料2>
地域交流、外出支援等について

4月	桜花見、チューリップ見物	10月	布部、山佐、広瀬小学校、広瀬中学校雑巾寄贈
5月	つづじ見物、ひろせ保育園センター寄贈	11月	紅葉狩り
6月	ふれあい書道展出品	12月	お楽しみ会、しめ縄作り
7月	紫陽花見物、祇園祭見物	1月	とんどさん、初詣、ふれあい書道展出品
8月	外出支援なし	2月	白鳥見物
9月	お楽しみ会	3月	桜花見

* 川柳投稿：月刊デイ(年1回)、山陰中央新報(年2回)、広瀬交流センター(年3回)

<資料3>
利用実績表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R2年度平均	R元年度平均
R2年度延人数	589	582	619	617	620	595	618	549	558	473	476	551	570.6	595.7
平均利用者数	22.7	22.4	23.8	22.9	23.8	22.9	22.9	22	21.5	19.7	19.8	20.4	22.1	23.1
稼働率	83.9%	82.1%	88.2%	84.6%	88.3%	84.8%	84.8%	81.3%	79.5%	73.0%	73.5%	75.6%	81.7%	85.3%

令和2年度 訪問介護事業報告(太陽ヘルパーステーション)

令和3年5月5日

項目	実施計画	実施状況
重点目標	柔軟性と思考力のある対応	・職員減やコロナ禍の中でも、出来る限りの新規利用者の受け入れと感染防止に励み、サービス提供継続に努力をし、他事業所で受け入れ困難なケースの場合も当事業所で対応可能な範囲で訪問を行い、在宅生活継続の援助が出来た。
	信頼関係の構築と保持	・利用者・家族の思いを傾聴し、ケアマネの助言や代弁を得ながら、関係構築に努め保持が出来ている。
サービス目標	満足感の得られるサービス提供	・利用者の心身・生活環境の変化に応じ、サービス内容の検討、ケアマネへの状況提供・提案、他事業所との連携を図り、在宅生活の安全確保や異常の早期発見・対応が出来た。 ・一方で家族の関わりや思いが強い余り、利用者の残存能力を生かすヘルパーの働き掛けが家族の意向に添わず利用終了になったケースも有り、サービス導入時の説明不足を反省している。
能力開発目標	ヘルパー連絡会	・毎週月曜12:30～実施。サービス内容確認検討 全員
	外部研修	・医療介護合同勉強会「コロナ感染症対策」 1名 ・新しい生活様式における介護予防 1名 *コロナ禍の中自粛やりモート受講式の研修が多く、当事業所参加は困難で受講できなかった。
地域目標	内部研修	・心の健康づくり(鬱・自死予防)安来市出前講座 全員
	民生委員・地域との情報交換	・民生委員・近隣者より利用者情報や相談を頂き、同時に今後の協力依頼も出来、良い関係性が保持されている。また、在宅生活継続への評価にも生かされ、適切なサービス移行へ繋げることが出来た。
業務目標	利用者目標件数 月45件	・要介護者月平均34件(前年31件)となり目標不達成。 ・延べ人数前年比771人減。年間目標に571人及ばず。その内要支援者も361人減と、全体的に利用者数が減少傾向である。要因として年度前半は職員不足で受け入れ利用者数が限られ、後半は入院後施設入所移行が多い事と、在宅生活を営む高齢者減少も影響の一因と評価する。 ・来年度も出来る限りの利用者受け入れに努め、当地域の在宅福祉の援助に励んでいく。
	包括・居宅支援事業所との連携	

令和2年度 障がい者自立支援事業報告(太陽ヘルパーステーション)

令和3年5月5日

項目	実施計画	実施状況
重点目標	居住地域社会での生活の継続 信頼関係の構築と保持	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々が、近隣者の支援や地域資源の利用、就労先の関係者の助言も得ながら、在宅生活の継続が出来た。中には今後の生活を踏まえ、施設入所の選択をされた利用者もあった。 会話や傾聴に努め、利用者・家族との信頼関係保持が出来ているが、来年度も努力をしていく。
サービス目標	出来る事に着目し意欲を促す	<ul style="list-style-type: none"> 共に考え・行い・促すサービス提供により、利用者のニーズが「出来る事」への変化に伴い、心身安定・自主性や行動の継続に表れ、訪問回数減へも繋げることが出来た。
能力開発目標	ヘルパー連絡会 外部研修 内部研修	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜12:30～定期に実施。 全員 コロナウイルス感染症対策防止研修 1名 *コロナ禍の為自粛やリモート受講式の研修が多く、当事業所参加は困難で受講できなかった。 心の健康づくり(鬱・自死予防)安来市出前講座 全員 コロナウイルス感染症対策(随時) 全員
地域目標	地域・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の緊急時等、コロナ禍でも家族や当事業所の対応が困難時に、地域の方の送迎や訪問の支援協力が有り、助けて頂き感謝しております。 困難ケースのサービス提供に関し、相談支援事業所や福祉課とケース検討や助言を得られ、利用者・家族、支援者双方の負担軽減に繋がった。 就労支援事業所へ介助時の負担軽減の為、福祉用具利用を提案する等、連携して利用者支援を行った。
業務目標	利用者目標件数 月7件 収益向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 月平均6、5名(前年7名)と目標件数をやや下回る。これは施設入所と後期の長期入院、事業所職員数減の為新規受け入れを中断していた事が要因である。この状況から、年度収益目標に対し収益は8割程度となるが、実質収入は前年度とほぼ同額と安定していた。 来年度は介護保険利用者状況も見ながら、新規受け入れをして行く。

令和2年度 太陽ヘルパーステーション利用実績表

☆訪問介護(介護保険)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
実人数	36	35	34	36	36	35	35	33	34	30	31	29	404	
延人数	356	277	299	312	315	290	306	279	264	240	226	301	3,465	
内訳	身体介護	116	75	101	117	134	137	140	134	119	109	82	92	1,356
	身体・生活	74	57	69	69	63	47	57	41	47	51	59	92	726
	生活援助	51	28	17	14	12	12	13	10	9	8	9	18	201
	訪問型独自	115	117	112	112	106	94	96	94	89	72	76	99	1,182

☆訪問介護(障がい自立支援)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	5	4	78
延人数	64	72	67	72	62	51	58	56	49	28	30	28	637

令和2年度事業報告(在宅介護支援センターひろせ)

令和3年5月3日

項目	実施計画	実施状況
重点目標	①ケアマネジメントに必要な医療との連携・多職種協働の実現に努める。 ②総合相談支援における知識と技術を身につける。	・個別地域ケア会議に参加し、自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントの実践力及び資質向上に努めた。 ・主任介護支援専門員連絡会に参加し、多職種とのネットワーク構築に向けて、協働して取り組む事が出来た。 ・地域ケア会議を開催し、多職種において地域課題を共有し、解決に向けた意見集約を行う事が出来た。 ・医療機関と連携し、入退院支援を行った。安来市在宅医療支援センター主催の研修に参加し、情報共有やケアマネジメントの実践力の向上に努めた。
サービス目標	居宅介護支援事業	・自己点検シートの活用や、研修への参加により、知識・技術・倫理性の向上に努めた。 ・行政・包括支援センターとの連携や研修への参加により、他法の知識習得に努めた。 ・医療機関と連携を図り、退院後のスムーズな在宅生活に繋げる事が出来た。
	総合相談支援事業	・11月5日、中学校校区別地域ケア会議開催。個別地域ケア会議に参加し、地域のネットワークの構築、多職種連携を図った。 ・民生委員や地域住民より情報収集し、実態把握及び地域課題の把握に努めた。 ・24時間相談対応し、適切な情報提供や専門的な支援、包括支援センター等の関係機関との連携を図った。 ・12月2日、主任介護支援専門員連絡会に参加し、専門的継続的な相談支援に努めた。
	安来市地域支援事業	・新型コロナウイルスによる感染拡大防止対策の為、年2回の家族介護者教室は中止となる。今後も、行政との連携を図り、介護者へ介護予防に必要な知識の提供を行っていく。
	介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務	・包括支援センターの委託を受け、介護予防のための効果的な支援を行った。
	要介護認定調査委託業務	・研修への参加やe-ラーニングシステム等で、常に新たな知識の研鑽に努めた。
能力開発目標	外部研修	主任介護支援専門員研修 8月10・11日、29・30日、9月15・16日、10月6・7、21・22日、11月1・2日(12日間) 1名
		主任介護支援専門員更新研修 新型コロナウイルスによる感染症拡大防止対策の為、中止
		認定調査員研修 9月11日 認定調査研修 2名
		ケアマネジメント研修 8月19日、2月17日、個別地域ケア会議(自立支援型ケアマネジメント会議)2名 10月16日、個別地域ケア会議公開講演会 1名
		スキルアップ研修 7月20日医療介護合同勉強会(新型コロナウイルス感染症発生に備えて)2名 10月10日、認知症研修会 11月6日、成年後見制度活用講座 11月7日、オンライン研修会(8050の基本理解と支援) 12月17日、こころの健康づくり講座(高齢者のうつ病・自死について) 2月19日、免疫力アップ講座(大塚製薬) 2月28日、安来市地域ケア推進会議 3月6日、災害ケアマネジメントについて 3月10日、難病治療の決定と選択 2名 1名 2名 2名 4名 5名 1名 1名 2名
	内部研修	法人内研修 ・個別ケース会議、法令順守、リスクマネジメント ・介護支援専門員毎に個人目標をたて、自己研鑽に努めた。 全員 全員
		新任職員研修 4月1日 新任職員研修 1名
		復命研修 7月22日「新型コロナウイルス感染症の発生に備えて」 11月11日「成年後見制度の活用講座」「8050問題の基本的理解と支援」 3月11日「ケアマネも知りたい難病治療の決定と選択」 全員 全員 全員
地域目標	地域課題の把握 地域づくり	・個別地域ケア会議や支援業務を通し、包括支援センター、行政、民生委員や地域住民との情報共有を行い、地域課題を把握し、地域づくりに繋がる様に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、サロンへの参加はなし。
	高齢者虐待防止協議会実務者会議	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、会議実施自粛にて書面審議となる。

業務目標	目標利用率	<ul style="list-style-type: none"> ○介護給付 (月170件、居宅支援費Ⅰ:125件、居宅支援費Ⅱ:45件目標) ・月平均:153件、居宅支援費Ⅰ:112件、居宅支援費Ⅱ:40件 ○予防給付(月37件目標) ・月平均:33件 ○入院時情報連携加算・退院退所加算の算定 ・入院時情報連携加算Ⅰ:延べ44件、Ⅱ:延べ9件 ・退院退所加算Ⅰ:1:延べ8件、Ⅱ:2:延べ6件 ・退院退所加算Ⅱ:1:延べ1件、Ⅱ:2:延べ4件 ○特定事業所加算Ⅱを継続して算定 ・介護支援専門員実務研修:1名の受入れ
	収益向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時情報連携加算、退院退所加算、他加算について、確実に算定出来る様に努めた。 ・特定事業所加算Ⅱを継続して算定出来るよう、毎週水曜日に定例会を開催し、利用者の情報共有・状況把握、事業所の資質向上に努める等、加算に係る基準の遵守を行い、減算防止に努めた。 ・医療機関や包括支援センターとの連携を図り、新規利用者、困難事例の受け入れに努めた。

令和2年度 総合相談支援業務実績報告書 (令和2年度合計)

様式A

事業所名 在宅介護支援センターひろせ

I. 相談方法(延べ数)

		延べ数
1	電話	58
2	来所	15
3	訪問	21
計		93

II. 相談人数

		計
1	実人数	71
	内、介護認定を受けていない人	30
2	延べ人数	93
	内、介護認定を受けていない人	34

III. 相談経路別区分(新規)

経路	実人数
本人	4
家族・親族	25
ケアマネジャー	2
行政機関	1
医療機関	12
民生児童委員	1
包括支援センター	23
近隣住民・知人	3
警察	0
介護事業所	0
その他関係機関	0
計	71

IV. 相談種別／件数(※重複あり)

① 介護保険その他の保健福祉サービスに関すること

		延べ数
1	認知症に関する事(疑い含む)	15
2	高齢者虐待に関する事(疑い含む)	0
2の内訳	a) 身体的虐待	0
	b) 性的虐待	0
	c) 心理的虐待	0
	d) ネグレクト	0
	e) 金錢的虐待	0
3	生活困窮に関する事	0
4	状況(実態)把握に関する事	2
5	入院・退院支援に関する事	14
6	ゴミ屋敷支援に関する事	0
7	介保申請・サービスに関する事	82
8	福祉用具・住宅改修に関する事	23
8の内訳	a) 自宅に訪問した件数	15
	b) 住宅改修件数	0
計		140

V. 年齢別件数

		実人数
1	~64歳まで	5
2	65~74歳まで	9
3	75~84歳まで	25
4	85歳~	32
計		71

VI. 校区別件数

		実人数
一中校区		0
二中校区		0
三中校区		2
広瀬中校区		67
伯太中校区		1
※松江市校区		1

VII. 訪問による実態(状況)把握件数

		実人数
1	ひとり暮らし世帯	14
2	高齢者世帯	10
計		24

VIII. 時間外対応(土・日・祭日含む)

延べ件数(月合計)	3 件
延べ時間(月合計)	0.8 H

《添付資料》※個別相談票(新規分)

令和2年度 事業報告書

グループホームなごみ

目標	事業計画	実施状況
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の役割を大切にした支援。 利用者がその人らしさを忘れることがなく生活できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 段々と高齢化、重度化により今までできていたことができなくなったりケースが増えた。その方にあつた、「声かけ」や「介助」等を見極めながら支援を行つた。 重度化に伴い介護量が増え、認知症の方に寄り添うことができにくいう状況になつているのが日常化している。新型肺炎コロナにより外出の機会が減り、下肢筋力の低下につながつた。
サービス目標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の身体状況に合わせアセスメントを的確に行い、サービスの提供を行う。 外出援助や季節の行事などに参加し、活気と笑顔のある生活を支援する。 適切なサービスを行えるように、医療との連携を図る。 新しく移転した場所で、利用者が安心して生活できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 面会や外出が思うようになりますが、他の利用者さんに送られ、退所された。 家族への情報提供は、毎月の手紙発行を増やし対応した。 個人のケアポイント、毎月のモニタリング”をカンファレンスにて状況をスタッフ全員で把握し共有化し支援につなげた。 新しい施設へのお出かけで、少しずつ雰囲気を味わつていただきました。
能力開発目標	<ul style="list-style-type: none"> 職員の資質向上・資格取得を目指す。 研修を通して専門性の向上に努める。 目標を理解し、どう行動すべきなのかを理解しながら、チームとして貢献できる。 ユニットケアを理解し、業務がスムーズに行えるように研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型肺炎コロナにため研修の機会も減った。内部研修で補えるように行った。 虐待や拘束については、委員会を別に設け検討した。 ユニットケアを理解できるように、職員会などで話し合いを深めた。 看取りを行うために、内部研修等で不安をなくすよう努めた。
地域目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域に向けた「認知症力フェ」の開催。 ボランティアの受け入れ 様々な研修や会合に闊歩りながら、認知症の啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 力フェも中止した。なじみの方が「いつから始めるか？」と聞いてこられた。 ボランティアも中止し、民生委員さんとの交流会などすべて中止した。 なごみ内でのお楽しみ計画しかできなかつた。 年2回の家族会を開催し、意見交換を行つた。 天気の良い日は近くの公園への散歩などで気分転換を行つた。
業務目標	<p>①さり気ない支援を行いながら、安全な生活環境を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より事故報告が増えた。アクシデントレポートの提出と検討会を行つた。 高齢化に伴い、重度になられる傾向があるため介護量は増える傾向にある。 ご家族の希望により看取りを行つた。 空きベッドを利用して、短期入所を行つた。
・退所者数・理由	看取り 1名 安来市立病院 2名 第一病院 1名 やすぎの郷 1名 尼子苑 2名	
	入院	